

2015 年  
フランス海外スタージュ  
報告書

フランス語教育スタージュ運営委員会編

日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、在日フランス大使館

本報告書は、2015年3月24日～27日に実施された日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、在日フランス大使館主催のフランス語教育国内スタージュの修了者のうち、2015年8月にフランス（ブザンソン）で実施された教員研修コースに参加した方によるフランス海外スタージュの報告書です。

# 夏期フランス・スタージュ報告書

畑本（東）志保

はじめに

今回、私が参加したのは8月3日～13日にブザンソンのCLA (Centre de Linguistique Appliquée de Besançon)、およびフランシュ＝コンテ大学(l'Université de Franche-comte)にて開催されたフランス語教員のためのスタージュである。以下、受講した授業を中心に報告する。

## 1. プログラムの概要

各日、全部で27の選択肢の中から3つのモジュールを選び、8時30分から15時まで受講するというシステムである。また、15時30分からはフォーラムとアトリエが開催され、期間中、4つは出席しなければならない。モジュールとアトリエが、フランス語教育に関わるものであるのに対し、ほとんどのフォーラムは、フランス文化やフランシュ＝コンテ地方の地域紹介に割り当てられている。

## 2. モジュール

私が受講したモジュールは以下の通りである。

- (1) Apprendre et enseigner la grammaire autrement
- (2) Développer des stratégies de compréhension orale et écrite
- (3) Enseigner la phonétique par le rythme et le mouvement

(1)のモジュールは、いかに文法事項を explicite (明示的) でない形で教えるかというテーマであり、コミュニケーションと文法を切り離して考えがちな旧来の語学教育とは異なる、様々なアイデアが提示された。印象的であったのが、様々な行為が書かれた複数のカードを使って、グループワークで生徒たちに、半過去・複合過去を使って物語を創造させるというものである。その他にも、読解や聴解のなかに文法事項を織り込んで行くという手法は、総合的にフランス語をとらえるためにも重要であると感じた。続いて、(2)のモジュールは、読解力および聴解力をいかに発展させるかというテーマである。CECRL にのっとり、最初から辞書に頼らずに、まだあまり知らない外国語で書かれた文章を、indice を見つけることで推論を立てさせようとする repérage のテクニックが紹介された。聴解力に関しては、「Voyages en français」のサイトを主に使い、ゲーム感覚でフランス語の聴解力を鍛えるタスクの与え方や、サイト上の document authentique を使って、いかに授業に活かすかという授業プランニングの方法がグループワークを通して提示された。学習者が自発的に学ぼうとする意欲を育てるための手段として参考になった。最後に、(3)のモジュールは、発音をリズムや身体の動きを通していかに教えるかというテーマであり、とても楽しい授業であった。先生が紹介したゲームは、学習者の自発性や創造性が試されるものでもあり、全て発音に割く事は現実の授業で出来ないものの、一部を取り入れられれば授業の進行にメリハリが出ると思う。どのモジュールも、インターネットを有効活用しており、様々なサイトが紹介されたので大変有り難かった。インターネットの活用は語学教育にお

いて自明のこととなっている事を実感したが、後はそれをどう活用していくかであろう。

本ステージの参加者の国籍は多岐に富んでいた。特にアルジェリア人が多く、その大部分は Ecole Normale Supérieure の学生であった。彼らはフランス語が母語ではないものの、小学校からフランス語に触れており、学生に要求する語学レベルも非常に高い。そう言う点で、他のステージ参加者とはズレが生じていた。(実際、ある講師が、アルジェリアの状況は Français Langue Etrangère というより Français Langue Secondaire であると言っていたぐらいである) 個人的に、彼らと知り合い交流ができたことは大変貴重な経験となったが、大学でフランス語を学び始めることの多い日本とは大きな隔たりがあることを感じ、改めてフランス語をめぐる状況の多様性に驚かされた。他に気づいた点としては、国内ステージではフランス語でフランス語を教えることに挑戦したが、本ステージではフランス語をフランス語で教えることは絶対条件ではないと考える講師ばかりであったことである。

### 3. フォーラムとアトリエ

私が受講したフォーラムは « Besançon, histoire d'une ville », アトリエは « Cinéma et FLE »である。「Besançon, histoire d'une ville」は、ブザンソンの街の歴史をスライドショーで紹介するというもので、授業自体は単調であったものの、そこで提示された写真や情報が意外に記憶に残り、非常にためになった。このフォーラムの講師は、他にもブザンソンの街を歩きながら解説するというフォーラムを担当しており、こちらは定員オーバーで参加できなかったものの、このようなブザンソンの歴史や地区を紹介する内容のものは、ブザンソンに来たばかりの第1週に受講するフォーラムとして最適であると思う。

アトリエの« Cinéma et FLE »は、どのように映画作品をフランス語教育に導入するかについて、講師がいくつか方法を介绍するもので、映画学を専門にしながらもフランス語教育のツールとして映画をあまり取り入れたことのない自分自身にとって参考になった。グループごとに登場人物を選んで、その立場に立ってフランス語で映画のシチュエーションを踏まえて気持ちを弁明させるというアクティビティ案は面白かった。とはいえ、提示される方法が中上級者向けのものばかりであるのが少し気になった。初級者には、やはり映画の一場面を見せて人物紹介をさせるというような単純なものしかできないのだろうか。TV 5 du Monde のサイトには、A1 のレベルから取り入れられる映画を使った教材が掲載されていたので、今後はそちらも併せて適宜実践できればと思う。

### 4. ブザンソンについて

ブザンソンは小さいが美しい町であり滞在先として素晴らしいと思う。見所はシタデル(城塞)で、街の全貌が見渡せるが、猛暑のなか坂を上り下りするのはきつかった。中心地には、Maison natale de Victor Hugo (CLA 学生は1, 5ユーロ)、ブザンソンの街や時計の歴史を扱う Musée du temps (CLA 学生は無料)がある。Musée du temps のこの夏の企画展示 Robert Cahen のビデオインスタレーションは、時間をテーマにしたもので美術館のコンセプトとマッチしていてとても面白かった。また、街の東側の Doubs 川沿いには隈健吾氏が建築デザインを担当した芸術センター Cité des Arts もある。そ

こから更に南に歩くと、対岸には1967年に大規模な労働運動が行われたロディアセタ工場の廃墟 (Prés de Vaux 地区) もあり、個人的に興味があったのでそちらにも足を運んだ。

滞在期間中は、他の参加者とともに「Doubs Direct」という現地グルメが味わえる物産館兼カフェのようなところで、ビールやワイン、現地のチーズや charcuterieなどを味わった。また、フランシュ＝コンテ大学の近く、Place Granvelleの「1802」というレストランでは、少し値段は高めだが美味しいランチが食べられた。滞在中は、参加者向けに様々なアクティビティが提供された。Haut Doubs 観光は、なかなか個人では行く事が難しそうなのイスの国境付近の村を訪ねるというもので、フランシュ＝コンテ地方の豊かさを発見する事ができた。エクスカションに関しては、個人でのアクセスが難しいクールベ美術館やロンシャン礼拝堂に行くツアーもあれば、なお良かったかと思う。また、ちょうど「フランス映画の夏」というイベントがPlace GranvelleのPetit Kursaalで開催されており、スタージュ参加者は3ユーロで、アルノー・デプレシャン、フランソワ・オゾンの最新作を鑑賞することができた。ちなみに、ブザンソンには他にCinéma Victor Hugoというミニシアターもあり、そちらでも良作がかかっていた。その他役立ち情報としては、宿泊先のRésidence Zenitudeの裏にはアジア食品店もあり、ラーメン、醤油、ふりかけなど日本食材も置いてある。スタージュ中に、アジアをテーマに行われたsoirée convivialeで出したお寿司の食材はそこで手に入れる事ができた。

おわりに

本スタージュに参加したことで、フランス語教育の方法や現状について多くを学ぶことができた。モジュールやアトリエの内容もさることながら、様々な国でそれぞれの事情のもとフランス語教育に携わっている人々と知り合えたことは大きい。フランス語を教えることということを、より広い視点からとらえ直すことができたからである。スタージュで学んだ数多くのことを、授業で活かせるよう取り組んで行きたいと思う。最後に、このスタージュに参加する機会を与えていただいた全ての関係者の方、また同時期に学んだスタジエールの方全員に感謝を捧げて、この報告書を終わりにしたいと思う。ありがとうございました。

写真

カフェのランチ



Promenade Chamars



Pont Bregille からみた Citadelle



## ブザンソン CLA 夏季スタージュについての報告

澁谷 与文

### 概要と生活情報：

CLA（セーエルアー）で8月前半の研修に参加した。2週間のうち週末を除いた10日間、8時半から15時（17時）までの研修を受けた。また、週末や夜にも多くの行事があった。

ブザンソンでのレジデンスについて。日本人教師は Résidence Zénitude に宿泊した。Résidence universitaire Canot は、インターネットが有線しかなかったり、共同キッチンに不具合があったりと多くの不満が聞かれたので、幸運だった。Zénitude には wifi、dépôt de pain(une baguette=1euro)、ドライヤー貸し出し（数は多くない）、洗濯機（1台、4Euro、8時から20時）などのサービスがある。スタージュが8時半に始まり、終わるのが15時～17時なので、その後、洗濯室には列ができてることがあることに注意。自室の浴室などで簡易的に洗濯できることが望ましい。Balcon 付きとなしの部屋がある、喫煙者は Balcon 付きを指定（に変更）すると良いのではないか。

パリでのホテルについて。TGVに1日先駆けてパリに到着したため、1日分の宿泊補助が許可された。Nation 広場の近くの Nouvel Hôtel は、CLA の stagiaire に馴染みの深いホテルらしく、到着早々、7月の stage を終えたばかりの、イランとチャドの先生と情報交換ができた。

### スタージュについて：

参加者が提供した様々な実践例に触れられたこと、各国の教師との情報交換できたこと、FLEの総合的な面について思索する機会であったことなどから、充実したスタージュだった。しかし、ここでは授業内活動の例や、ありがちな失敗と対処に関する議論、stagiaire が取り組んだ課題などといった具体的なことを述べるスペースがないため、スタージュ中に交わされた議論の概要を述べるに止める。尚、Module は7コマ、Forum は1コマ、Atelier は3コマで、1コマは1時間半。

### **Module: Apprendre et enseigner la grammaire autrement, Denis ROY**

モジュール名は、教科書を用いずに文法を教えるという意味のように思う。その結果、視聴覚教材、散文作品、歌、インターネットサイト、カードゲームなど、様々な教材を用いてモジュール担当者が授業内活動を提案し、活動の効果を細かく解説した。続いて演習となり、受講者のグループが3回、授業内活動を構成・提案した。

ROY氏はアジア圏のどこかの国でACPFをなさっていた方のように思う。「DELF・DALFの問題文は各国語に翻訳されることが望ましい」と述べるなど、柔軟な発想に共感を覚えた。

### **Module: Planifier et animer un cours de FLE, Marie-Laure LIONS-OLIVIERI**

授業を構成するすべての局面を、シンプルに駆け足で、総論的に取り扱った。その際、Philippe Perrenoud, Dominique Bucheton, Jean-Pierre Astolfi, Philippe Meirieu, Michel Baldy-Stephanus とい

った教師の議論が紹介された。Progression, Compétences, Différenciation du posture といった基本概念の解説が中心であったが、Gestion du tableau や Évaluation に関しては具体的に例を示してくれた。後半は、教科書の読解及び授業の構成の演習になった。

受講者のバラエティへの配慮から、また、Concevoir et animer des séances de FLE pour jeunes publics というモジュールも担当なさっている講師らしく、LIONS-OLIVIERI 氏は子供、中学生、高校生、大人といった年齢差に対応しての微調整に意識的であった。

### **Module: Enseigner la phonétique par le rythme et le mouvement, Régine LLORCA**

Corbeille d'idée, Langue à accent lexicale, Exercices à trou sonore といった独自の、音声学を身体的に迫及しようとする授業内活動が考案されていた。具体的には、振り付けや演劇的役柄などを与えられ、身体表現を交えつつ行う、イントネーションとシラベーションに関する多様な授業内活動だ。例えば、1~4 音節の表現・文章を即興で考え、拍子をとりながら（ステップを踏みながら）、質問に答えたり会話したりする活動が特に印象的だった。

LLORCA 氏はフラメンコのダンサーらしい鍛えられた身体で、エネルギッシュな授業を行うので、受講生も活力に満ち、笑顔の絶えない講座だった。また、韓国の高校教員向けスタージュ（ソウル、プサン）には度々赴いている講師のようだ。

### **Forum: Découvrir la médiathèque du CLA et ses ressources, Alix PELÉ**

FLE、教育学、教育言語学関連書籍や、フランス語教科書の豊かな蔵書が特徴的だった。これらの文献に関して、他では見たこともない詳細な下位分類化があり、CLA の思想を立体的に反映していた。また、別の分類法として、大学教育のみに言及した文献などは、背表紙に直接シール（U のシール）を貼って区別されていた。さらに、例えば、文学の蔵書は多くはないが、教育利用を考えた蔵書になっているのだろう。

尚、教育学・教育言語学に関連した雑誌の所蔵には次のようなものがあった。

Étude de linguistique appliqué, Revue internationale d'éducation de sèvres, LIDIL, AILE, Revue de didactologie des langues-cultures, Repères, Langues modernes, Recherche et formation, LIA, Langue française, Langage interaction and acquisition, Cahiers de l'ASDIFLE, Français aujourd'hui, Synergies, Nouveau bulletins de l'ADEAF

### **Animation: Besançon, Bateau-mouche**

複数の Forum を担当する建築歴史学者の Pascal BRUNET 先生が解説をしてくださるので、通俗的な観光案内以上に、豊かなものであった。ブザンソンの街の周囲を囲む城塞や数々の丘、森や水路の起源と歴史を情景豊かに読み解き、ルイ 14 世時代、19 世紀、あるいはさらに古い時代の姿とその変貌を想像させてくれた。日差しが強く、日焼け止めが必須である。

### **Excursion: Haut-Doubs**

Château de Joux と Gorges du Doubs を散策。ジュー城の螺旋階段や Toussaint Louverture の殺された部屋は見ものであった。

### **Forum: Solliciter les intelligences multiples en classe de FLE pour jeunes publics...oui, mais comment ! Helene VANTHIER**

Jean Piaget、Jérôme Bruner、Howard Gardner などの心理学・教育心理学に関する議論が、Transmission(Enseigner)と Mise en active(Apprendre)の間をどのように埋めるかという観点から、教室での戦略として論じられた。具体例豊かな解説であったが、図式的な側面にのみ注目すれば、Piaget の主張した3つの記憶、mémoire à court terme, mémoire de travail, mémoire à long terme に対して、Bruner や Gardner の言う知性のタイプ (verbale/linguistique, musicale, visuo-sportive, kinesthésique, logico-mathématique, du naturaliste, inter-personnel, intra-personnel) を区別しながら、複数の知性のタイプに同時に訴えかけようという内容だった。

### **Atelier: Cinéma et FLE, Nicole POIRIÉ**

映画に関して、音・映像・ストーリーという3つのセミオロジーを、FLE の exercices として提供しようという話だった。POIRIÉ 氏の映像、音声に対する繊細な分析は興味深かった。しかし、時間の関係もあつてか、教材利用としての具体例に鮮烈さがなく、また、FLE の理論としても新しいものを感じなかった。

### **総括：**

スタージュ参加者の国籍は時期によって変化がある。2015年8月前半の参加者は大まかに見積もって以下のような内訳だったように記憶している：フランス (CLA 院生、5人)、アルジェリア (30人)、南米を中心としたラテン語圏 (20人)、韓国 (10人)、アゼルバイジャン (10人)、スウェーデン (5人)、トルコ (4人)、日本 (4人)、その他 (50~100人)。

アルジェリアの ENS の学生の多さの一つの特徴であった。アルジェリア人たちの中で教諭経験のある者は数人だった。フランス語が第二言語 français langue seconde である国、エジプトなどのフランス語が初習外国語 première langue vivante である国、そして、article, imparfait, subjonctif といった概念自体を根付かせる必要のない南米を含むラテン語諸国、これらの国々の教師は200人に満たない stagiaire の中で50人を超える。この状況は、フランス国内の語学学校を彷彿とさせる状況ではあるものの、それ以外の国の教師が望む français langue étrangère について考える機会を少なくする。当然、数人の教師のチームで授業内活動を構成する時など、対象となる学生がアルジェリア人かヒスパノフォンか日本語話者かで、学生が達成すべき目標に対して同じ順序を辿って構成することはできない。日本の大学を巡る現状とは異なり、およそその stagiaire が、2、300時間の学習を前提に物事を考えていることは当然だろう。しかし、特にアルジェリアの状況は、その他の stagiaire の抱える状況

と乖離しているように見えた。こうしたことに鑑みれば、日本で行われた stage の方が無駄が少なかったことは確かだ。

それでも、多国籍の教師との出会いは、まさにフランス的な豊かさであった。韓国、中国、インドネシア、メキシコ、スーダン、エジプト、トルコ、キプロス、アゼルバイジャンなどの国々の先生たちの知遇を得た。また、中には偉い先生方、教育功労賞を授与された方、国の言語政策に関わっている方、監査 inspecteur の立場の方もいらっしやった。意見を交換するうちに、その国のフランス語教育の環境やシステムデザインについての分析を伺えたことなどは身に余る光栄であった。10 カ国以上の教師が「文法中心の授業になってしまう」という発言をしていたことも、内実はそれぞれ違うのだろうが、問題意識の重なりとして興味深い。

# フランススタージュ報告——2015年8月17～27日 CLA（ブザンソン）

高橋 梓

## 1. スタージュ概要

夏期にブザンソンで行われるスタージュは月～木の講義を2週にわたって受講する。一日に90分の選択授業（モジュール）を3つ受講し、その後は任意参加のフォーラムかアトリエ（各90分）を選択する。フォーラム／アトリエは期間内に4つ受講することが課せられる。文化的な催しへの参加も推奨され、映画や演劇の格安チケットが販売される他、週末には近隣の街や名所への遠足も企画されている。

## 2. モジュール、フォーラムについて（高橋のケース）

CLAのスタージュ内容はホームページで紹介されているので周知のことかもしれないが、アルジェリアをはじめとして各国のフランス語教師（および教師希望者）が大勢参加するため、モジュールが非常に多様であることが魅力である。各モジュールは15名程度の参加者で行われ、ホームページやメール等で事前申し込みをしなければ定員オーバーに成りかねないので注意せねばならない。以下に報告者が選択したモジュールについての概要を述べる。

### « *Apprendre et enseigner la grammaire autrement* »

日本のフランス語教育において今なお主流である文法教育が、FLEのメソッドではどのように扱われているかを理解する上で貴重な講義である。日本人スタジエールは報告者を含めて三名であり、すぐに定員に達した人気の講義の一つ。担当者が日本で教育経験も豊富なドゥニ・ロワ氏であったこともあり、会話が得意なアルジェリア人の多いクラスの中でかなりのご配慮をいただいた。

ロワ氏のメソッドを要約すると、はじめに documents authentiques に触れさせ、それに基づいて文法事項を定着させる、というものである。使用教材は文学・影像・カードゲーム・楽曲と多岐にわたった。

一例を挙げると、配布されたテキストを手にししながら、テキストのみに目を向けず、話し相手の相手の方を見ながら音読する、という方法で内容把握と暗記のトレーニングを行い、しかる後に使用されている文法に関する練習問題を実施する、等。いずれも文法教育が陥りがちな読解力偏重のトレーニングを避け、読む力・聞く力・書く力・話す力を交差させるものであった。ロワ氏にはご自身が作成した教授用資料のデータを惜しげもなく提供していただき、それらの資料に基づいてどのように文法を教えるか考えるという課題も出された。

### « *Apprendre et enseigner avec la chanson francophone* »

Nicole Poirié氏が担当するシャンソンのモジュールには、報告者を含む二名の日本人スタジエールが参加した。紹介される楽曲は古典的なものから現代のヒップホップまで多種多彩である。第一週目

の講義では、4人1組のグループに分かれ、課題となる楽曲に基づいた *fiche pédagogique* を作成する。報告者も意見を提示したのだが、歌詞を中心にしたテキスト解釈と文法理解を目的とする資料を作成したところ、Poirié 氏より「文学読解ではないのだから、シャンソンという特性をよく考えるように」というご指摘を賜った。その後のグループワークでは、まず歌詞を見ずに楽曲を聴き、リズムや雰囲気把握し、また一度聴いてテーマを理解する、など、シャンソン特有の要素を重視する方向で資料を作成した。

第二週は Poirié 氏の分析の提示が中心となり、文法・発音・文化的要素の理解といった諸テーマに合わせた楽曲の選択と、具体的な教授法が示された。

#### « *Organiser un cours de FLE à partir d'un manuel (Public adolescents)* »

Carole Doillon 氏による、大学進学前の十代の学生を対象とした授業の組み立て方を考えるモジュール。日本人スタジエールは報告者一人であった。選択理由は、報告者が高専での授業を担当していることと、FLE の成人向け授業が日本人の初学者にとって難解な印象を受けるということからである。講義ではグループワークを推奨され、各出版社の教科書分析と発表を課された。内容としては、それぞれの教科書を比較して利点を述べる、その教科書に基づいた *fiche pédagogique* を作成する、といったものだが、adolescents 向けということ意識したモチベーションの高め方の議論が特徴的だった。

一例を挙げると、SNS の使用をはじめ、アクチュアルな文化を各課のテーマとすることで注意を喚起することが推奨された。報告者のグループは *fiche pédagogique* の作成においてフランス料理を題材とする授業の組み立てを提示した。

#### フォーラム／アトリエ

三つのモジュールが終了した後は、15時半から任意参加のフォーラムとアトリエが開かれる。フォーラムは一回で完結するものであり、アトリエは4日連続参加が必須となる。いずれも期間内に4つ選択することが課せられるが、報告者は6つのフォーラムに参加した。フォーラムはFLEの教授法に関するものと、ブザンソンの地方史の習得を中心とする文化的なものに二分されるが、報告者が選択したものはすべて文化的フォーラムである。紀元前から続くブザンソンの歴史の授業や、街歩きによる歴史的建造物の紹介、ブザンソン出身であるヴィクトル・ユゴーの記念館への来訪、時計の展示が有名な博物館 Musée du Temps の来訪など、非常に興味深い内容であった。

#### その他、文化的催事

スタージュ期間中は大学付近の劇場で映画や演劇の鑑賞を推奨される。チケットは廉価で、無料の催しもある。またカラオケパーティや *Soirée internationale* といった企画もあった。週末には任意参加の遠足が有料で企画される。報告者はストラスブールへのツアーに参加した。また日本人スタジエールのプランにはブザンソンを流れるドゥー川の上流をめぐるツアーが含まれていたため、無料で参

加することが可能であった。内容はドゥー川上流に位置するジュー城の探索や、スイスとの国境地帯までの遊覧船ツアーなど、興味深く充実したものである。

## CLA の研修を終えて

田島 義士

今回、CLA の研修に参加したことで、授業を運営するための技術だけでなく、教員としての心得も学ぶことができました。授業では、教育に関するノウハウから最新の情報に到るまで、詳細かつ明快な説明をそれぞれの専門家たちから受けました。また、どの授業でも毎回、異なる国の研修生と意見を交えることができ、新たな発見がありました。教員としての経験が長い研修生が持論を譲らず、授業がストップしてしまうこともありましたが、それだけ皆が真剣に授業に取り組んでいたということでしょう。そうした研修生たちと意見を戦わせながら、授業プランを作り上げられた時の喜びはひとしおでした。また、同じく派遣された日本人の研修生と教育論を語り合えたことや、Soirée internationale でそれぞれの特技を活かした演目ができただけでなく、忘れることのできない思い出となりました。今後のフランス語教育に携わるにあたり、貴重な経験となりました。

以下に、CLA の授業、Soirée internationale という項目に分け、説明していきます。

### CLA の授業

#### Module、Atelier、Forum について

CLA の研修では、自身の必要や興味に応じて、数ある Module の中から三つを選択し受講することができます（前期と後期では、Module の内容が異なります）。Module の他に Atelier や Forum も設けられています。Forum には、FLE 関連のものとブザンソンにまつわる都市論、文学、絵画関連のものが用意されています。CLA での研修を受講したことを示す修了証を取得するためには、三つの Module および、一つ以上の Atelier（四コマが一セット）あるいは四つ以上の Forum を受講する必要があります。以下に、受講した三つの Module について簡単に紹介し、感想を書きます。

#### Module 1 : Perfectionner ses compétences en langue écrite et en grammaire

教員：Richetto Philippe

紹介：文法事項の中でも解説が困難だと思われる項目（冠詞の使い分け、過去動詞の使い分け、接続法、接続詞など）をピックアップし、練習問題を実際に解きながら教授法に関する注意点を解説します。

感想：Richetto 先生自身も述べられていた通り、初級文法を一通りマスターした学生を対象とした授業での教授法を紹介する Module です。初修者を対象とした授業では扱わない方が無難だと思われる文法項目が多くあることを学びました。はじめは練習問題をひたすら解くため、語学学校のような雰囲気がありました。私から教授法に関する質問をしたところ、非常に丁寧に応えてくれ、様々な問題集や使える解説書なども紹介してくれました。習得が困難な文法事項を定着されるための記述式ゲームが面白く、実際に自分の授業でも使えそうです。

## Module 2 : Pratiques de classe : Enseigner dans une perspective actionnelle

教員 : Mallet Claire

紹介 : まず、授業を準備するための心得、学生のレベル・授業時間に応じた準備シートの作り方、授業タスク (tâche) の立て方などを Mallet 先生が解説した後、実際に研修生に授業の準備をさせます。

次に、教科書や教材の選び方・使い方における注意点の解説を聞き、研修生に教科書を自由に選ばせます。教科書から授業タスク (tâche) を見出した上で、それに合ったアクティビティや練習問題を教科書から取捨選択させ、授業プランを作らせます。他の研修生と共に授業プランを発表する機会が数回設けられています。

感想 : われわれ研修生が作った授業プランに対して、Mallet 先生だけでなく同じ研修生と意見交換 (タスクの実用性があるか、練習問題や課題はタスクと呼応しているかなど) ができたのが良かったです。

学生の立場にたった授業プランの作り方が身に付いただけでなく、教科書の選び方や活用法についても明快な説明がなされたため、とても役立ちました。異なる文化圏の研修生たちの意見も新鮮で、自分にはない発想がありました。

## Module 3 : Utiliser les ressources multimédia en classe de FLE

教員 : Shungu Athanase

紹介 : さまざまなテーマ (映画・歌・ネット記事・ゲーム) に応じたインターネットの語学習得サイトを紹介しながら、使い方の説明や活用法の提案がされます。

感想 : Call 教室等での授業で適用できる情報が豊富であり、それぞれサイトの使い方の解説も丁寧でした。また、教材もあらゆるレベルに応じていて、すぐにでも使える情報が多くありました。その反面、教授法の解説というよりは、情報提供の場に徹していたのは少し残念です。

Forums としては、ブザンソンにまつわるものを受講しました。実際に街に出て、歴史建造物を目の前にしながらの解説は、分かりやすく新鮮でした。特に Pascal Brunet 先生の解説が素晴らしく、その知識、説明の仕方 (間の取り方、緩急、受講生とのコミュニケーションなど) には教員として学ぶものが多くありました。

Excursion としては、ブザンソンから 1 時間くらい離れた Château de Joux に行きました (参加費の 60 ユーロはフランス政府から支給)。様々な国の研修生とも仲良くなることができました。学生も参加していたため、説明を聞かず自由奔放な態度を取る人もいましたが、ガイドや引率の対応も素晴らしく、将来的に学生の引率する際のノウハウを学びました。

## Soirée internationale について

8 月後半の研修の最後には、研修生それぞれの国の文化を紹介する Soirée internationale が劇場 (500 人を収容可能) で催されました。われわれ日本人研修生は、歌舞伎の勧進帳の一場面を演じました。身の回りにあるものだけを使っての即興劇でしたが、日本文化に精通していない人にどう伝えるべき

かなど演出プランを同僚たちと話し合ったことは、学生目線に立つべき授業準備とも通じるものがありました。また、実際に初めて歌舞伎を観た方も多く、Soirée internationale の後にもずいぶんと色々な意見をいただいたり、詳しい解説を求められたりしました。日本文化を知ってもらえるよい機会ですので、CLA の 8 月後半の研修に参加される方は、研修生同士で予め話し合い、演目に必要な小道具や衣装を準備することをお勧めします。

## 2015 年度夏期スタージュ 報告書

杉山香織

報告者は 8 月 16 日から 27 日まで、ブザンソンにあるフランシュ・コンテ大学の Centre de Linguistique Appliquée (CLA)が運営する夏期スタージュに参加した。以下、研修中に受講した講義の概要、研修全体の運営についてまとめる。

### 受講した講義の概要

本スタージュは、8 時 30 分から 10 時までのモジュール、10 時 30 分から 12 時までのモジュール、そして 13 時 30 分から 15 時までのモジュールの 3 つのモジュールと、15 時 30 分から 17 時までのアトリエもしくはフォーラムによって構成されている。報告者は、*Evaluer en classe de FLE, Se perfectionner à l'oral, Favoriser les pratiques ludiques et créatives en classe de FLE* の 3 つのモジュールと、*Français familier et argotique* のアトリエに参加した。

### Evaluer en classe de FLE

本授業は、évaluation という単語から何を連想するのかについての参加者間の議論からスタートした。そして、évaluation から参加者が連想するさまざまな語に対して講師が定義を行っていった。その後、4 技能ごとに実際のテストを見ながら、その指示方法や、配点、構成、出題形式等を分析し、批判を行った。また、グループワークを行い、参加者がテストを作成し、それぞれが作成したテストに対して参加者同士で分析と批判を行った。

もちろん、参加者による個人差もあるが、参加者の出身国による évaluation に対するイメージの差は興味深かった。例えば、アルジェリア出身の参加者からは remédiation という単語が挙げられていたが、この概念は日本の外国語教育の評価には欠けているものなのかもしれないと感じた。また、自分の出題してきたテストが、どれだけ学習者の視点からは不親切であったのかを実感し、反省した。

### Se perfectionner à l'oral

本授業は参加者の会話力および聴解力の向上を目的とした授業であったため、語学学校のような授業であった。主に、音声学的な見地に立った発音練習、同音異義語を多く含むディクテ、映像を見ながらの即時解説、早口言葉やことわざを扱ったアクティビテを行った。最後に、演説および発表の練習として、各参加者が母語について発表し、質疑応答を行った。

アルジェリア人のようなほぼ母語話者に近いフランス語レベルの参加者から、会話があまりできない参加者まで様々なレベルの参加者がいたが、それぞれに発言機会があり、フランス語会話の練習になった授業であった。上級学習者向けのフランス語の授業にも応用できるような活動が含まれていたため、実際にそれらの活動を行ってみたい。

### **Favoriser les pratique ludiques et créatives en classe de FLE**

本授業は、ゲームを通じた活動の紹介、活動の指示等の活動運営方法の説明、そして既存のゲームから発展させたオリジナルのゲーム作成といった3段階で構成されていた。

毎回異なるゲームが紹介されるため、授業活動のいいヒントになった。また、実際にゲームの説明をしてみると、自分はルールを理解していても、他人にうまく説明できないということが分かった。これまでは、ゲームをあまり知らず授業では扱ってこなかったが、学習者がより積極的に参加できる授業となるよう、これからは既存のゲームやその応用したゲーム等を授業にうまく取り入れていきたいと思う。

### **Français familier et argotique**

本アトリエでは、まず français familier と français argotique の違いについての説明が行われた。そして、verlan などの単語レベル、pataques、cuir、velours、psilose といった発音レベル、ne や主語の脱落などの統語レベルから français familier と français argotique を概観した。最後には、これらが良く使用されている BD を読み、実際の使用を確認した。

日本でフランス語を学ぶ際には、これらのフランス語に出会うことはほとんどないが、フランス人の会話を理解するには欠かせないものである。講師は français familier と français argotique の事象を羅列するだけでなく、言語的背景等の説明も行い、大変興味深いアトリエであった。

### **研修全体の運営**

スタージュ開始前にオリエンテーションがあり、モジュールの説明やスケジュールの説明が明確に行われた。また、各グループにチューターがついており、トラブルがあった際にはきちんと対応してもらえた。そのため、参加者が授業に集中できる環境が整っていたと言える。

また、activités culturelles も多数用意されており、授業外での参加者同士の交流の場も設けられていた。特に、2週目に行われた soirée internationale では、各国の参加者がその国特有の演目を披露し、参加者間の相互理解や絆が深まったように感じた。日本からのスタジエールは、この日のために歌舞伎「勸進帳」を練習し、当日披露した。日本の文化を少しでも伝えられていたら幸いである。

最後に、本スタージュへの派遣機会をいただいたことに対して、関係者の方々に対して感謝の気持ちと御礼を申し上げ、謝辞にかえさせていただく。

## 研修報告書

大木 勲

- ・ スタージュ参加期間.....2015年8月17日（月）～8月27日（木）

スタージュの内容やスケジュールについて実用的な情報があれば有益と考えましたので、まずはその概要と、私の選択したモジュールについて記述したいと思います。

- ・ 午前（M1、M2）、午後（A1）の計3モジュールを各日、これにくわえ、15時30分から行われるフォーラムもしくはアトリエに最低4回出席することになります。各時限に八つの選択肢（15時30分からは二つ）があり、悩みどころです。他参加者の話を聞いても、興味深いものばかりでした。初日、あるいは二日目の朝くらいまでなら変更も可能なようです。

- ・ 一部のフォーラム参加には、事前の登録が必要となります。第1週目のものは、初日のガイダンス後に登録をすることになっていたと記憶しています。選択肢に関する資料を添えておきますので、参考にいただければと思います（添付資料1、添付資料2）。

- ・ 終了後は、選択したモジュール名、出席したアトリエ名と累計時間が記された証明書を受け取ります。

- ・ M1 (8h30-10h) ..... Apprendre et enseigner la grammaire autrement

文法を大きなテーマとしているとはいえ、扱う対象は多岐にわたり、扱い方や提示方法も自由度が高い印象を受けました。音声の反復練習による文法規則の定着、ゲーム形式の練習、各種サイトの紹介、歌や映像を使った学習、各種資料を活用した授業の行い方について、グループあるいは各自で練習問題を作成するなどしながら話し合いを進めていきます。

- ・ M2 (10h30-12h)..... Pratiques de classe : Enseigner dans une perspective actionnelle

初日に理論的な説明があり、以降は主にグループでの活動を行いました。目標の設定などを含め、どのように授業の全体を組み立てるかについて考えることが中心的な作業となります。まず教科書を選択し、テーマを選び、課題を設定する。これをもとにどのような授業を組み立て、そのためにはなにが活用できてなにが足りていないか、などの批判的検討を行ったのちに発表をするという流れがメインでした。

- ・ A1 (13h30-15h) ..... Dynamiser les pratiques de l'écrit en classe de langue

物語（コント）を作る、インタビューをする、クイズを解く・作るなどゲーム形式の活動が多く扱われました。会話や聞き取りの練習としても機能する学習活動を、まず参加者が自ら実践し、これをどのように書くための練習につなげるか、その活用方法を話し合う作業が中心です。扱った課題の

内容としては、もっとも要求されるレベルが高いと感じました。

・フォーラムは、概して FLE に関するものとブザンソンの歴史や縁のある人物をめぐる内容がそれぞれ用意されています。私は主にブザンソンとのかかわりがあるものに参加していました。こちらは、基本的に説明を聞く時間が多くなっています。

・その他、映画鑑賞や演劇鑑賞など、豊富なイベントが用意されています。週末はフランスやスイスへのエクスカージョンも企画されていますが、日本からのスタジエールは "Château de Joux" 見学に無償で参加することができました。(添付資料3)

・2週目の水曜日には、"soirée internationale" が開催され、歌やダンスなど、それぞれの国が伝統的な出し物をするようになります。2週目の月曜日に、このリハーサルが行われました。軽い気持ちでいたのですが、劇場を借りて行われる大掛かりなイベントで、たいへん盛り上がるものとなっています。(添付資料4、添付資料5)

・研修時間内外を問わず和気あいあいとした雰囲気が保たれ、心から過ごしやすさを感じていました。日本からの参加者グループ計5名も抜群のチームワークを発揮し、より効果的に研修成果を吸収していました。研修の内容が充実していたのはもちろんのこと、とりわけこのような出会いの面で得たものが多かったと感じています。研修じたいも余裕をもって望める内容のものであり、フランス滞在を満喫することができました。

## Formation pour professeurs et formateurs de FLE - Août 2015 -

[imprimer](#)

Programme pour la session du 17/08/2015 au 27/08/2015

### M1 - 8h30-10h

- 2610 [Apprendre et enseigner la grammaire autrement](#)
- 2611 [Évaluer en classe de FLE](#)
- 2612 [Activités théâtrales en classe de langue](#)
- 2613 [Concevoir et animer des séances de FLE pour jeunes publics](#)
- 2614 [Enseigner le français sur objectifs universitaire \(FOU\)](#)
- 2615 [Apprendre et enseigner avec l'image et la vidéo](#)
- 2716 [Perfectionner ses compétences en langue écrite et en grammaire](#)
- 2762 [Concevoir et animer une formation en ligne \(Groupe Nigérian\)](#)

### M2 - 10h30-12h00

- 2616 [Pratiques de classe: Enseigner dans une perspective actionnelle](#)
- 2617 [Dynamiser les pratiques de l'oral avec Radio France International \(RFI\)](#)
- 2619 [Apprendre et enseigner avec la chanson francophone](#)
- 2640 [Animer sa classe et enrichir ses pratiques grâce au tableau numérique interactif \(TNI\)](#)
- 2622 [Se perfectionner à l'oral](#)
- 2624 [Motiver les adolescents à travers une pédagogie active](#)
- 2739 [Favoriser les pratiques d'écriture créatives en classe de FLE](#)
- 2760 [Se perfectionner à l'oral](#)
- 2761 [Observer et analyser des pratiques de classe / Conseiller les enseignants \(Groupe Nigérian\)](#)

### A1 - 13h30-15h

- 2638 [Organiser un cours de FLE à partir d'un manuel \(Public adolescents\)](#)
- 2618 [Techniques d'acteurs pour professeurs et formateurs de FLE](#)
- 2623 [Dynamiser les pratiques de l'écrit en classe de langue](#)
- 2625 [Pédagogie de l'oral : favoriser les interactions en classe de FLE](#)
- 2626 [Favoriser les pratiques ludiques et créatives en classe de langue](#)
- 2627 [Perfectionner ses compétences en langue écrite et en grammaire](#)
- 2628 [Utiliser les ressources multimédia en classe de FLE](#)
- 2763 [Méthodologie du FOS \(Groupe Nigérian\)](#)



**Forums et ateliers (15h30-17h)  
du 17 au 27 août 2015**

<b>Forums</b>		
<b>Lundi 17 août</b>	<p><b>1. Besançon, à la découverte d'une ville, de son histoire, de son patrimoine</b> Pascal Brunet, Musée des Beaux-arts et d'archéologie, Ville de Besançon</p> <p><b>2. Découvrir la médiathèque du CLA et ses ressources</b> - nombre de places limité à 19 Alix Pelé, Documentaliste au CLA</p>	<b>Ateliers 4 séances</b> Du lundi 18 au jeudi 21 août
<b>Mardi 18 août</b>	<p><b>1. Anxiété communicative de l'enseignant et de l'apprenant : dépassons nos limites !</b> Cécile Médina, Maître de Conférences, CLA, Université de Franche-Comté</p> <p><b>2. Portraits de femmes à travers la peinture occidentale</b> Isabelle Sombardier, Musée des Beaux-Arts et d'archéologie, Besançon</p>	Atelier n°1 <b>Atelier d'écriture créative</b> Claire Eustache Intervenante au CLA
<b>Mercredi 19 août</b>	<p><b>1. Comment stimuler la mémoire de vos apprenants ? Techniques et situations de classe</b> Denis Roy, enseignant au CLA, Université de Franche-Comté</p> <p><b>2. Besançon, une ville pleine de surprises ! (Façades anciennes, cours intérieures, escaliers...)</b> Pascal Brunet, historien de l'architecture, expert associé au CLA - nombre de places limité à 20</p>	Atelier n°2 <b>Atelier « Français familier et argotique »</b> Philippe Richetto Enseignant au CLA
<b>Jeudi 20 août</b>	<p><b>1. L'image sous toutes ses formes en classe de FLE : 2D, 3D et animée</b> Cécile Médina, Maître de Conférences, CLA, Université de Franche-Comté</p> <p><b>2. Découvrir le Musée du Temps et le Palais Granvelle</b> - nombre de places limité à 20 Iris Kolly, Musée du Temps, Ville de Besançon</p>	Atelier n°3 <b>Créer une carte postale sonore</b> Deborah Gros Intervenante au CLA
<b>Vendredi 21 août</b>	<b>Journée des éditeurs de FLE</b>	

<b>Lundi 24 août</b>	<p><b>1. Utiliser la plate-forme Moodle en classe de langue</b> Athanasie Shungu, enseignant au CLA, Université de Franche-Comté</p> <p><b>2. Parcours Découverte - Besançon, à travers l'histoire, des gallo-romains à Victor Hugo</b> Pascal Brunet, historien de l'architecture, expert associé au CLA - nombre de places limité à 20</p>	<b>3 séances</b> Du lundi 24 au mercredi 26 août
<b>Mardi 25 août</b>	<p><b>1. Entre approche communicative et perspective actionnelle, comment construire sa séquence pédagogique ?</b> Fabrice Barthélémy, Maître de Conférences, CLA, Université de Franche-Comté</p>	Atelier n°1 <b>Atelier « Cinéma et FLE »</b> Nicole Poirié Enseignante au CLA
<b>Mercredi 26 août</b>	<p><b>1. Présentation du Master CLA, spécialité Didactique du FLE/FLS, parcours Métiers du FLE et ingénierie de la formation</b> Anne-Claire Raimond, Maître de conférences, CLA, Université de Franche-Comté</p> <p><b>2. Victor Hugo : l'homme et ses combats, d'hier à aujourd'hui</b> - nombre de places limité à 20 Arlette Burgy-Poiffault, Maison natale de Victor Hugo, Ville de Besançon - Ce forum aura lieu dans la maison natale de Victor Hugo -</p>	Atelier n°2 <b>Atelier d'écriture créative</b> Philippe Richetto Enseignant au CLA
<b>Jeudi 27 août</b>	<b>Pot de fin de stage</b>	

添付資料 3



添付資料 4



添付資料 5

